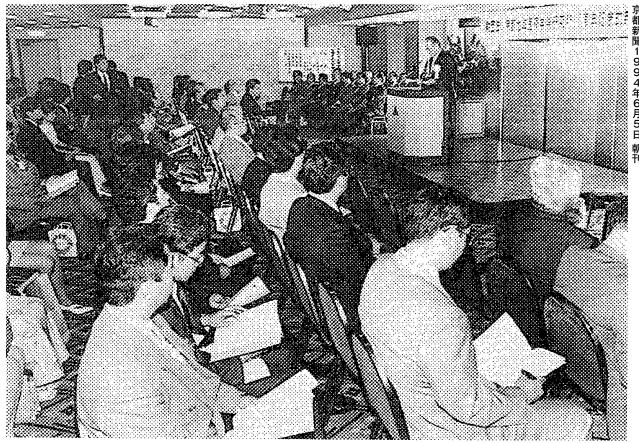
しあわせ みらい 見えないものも 診ています



2025 spring vol. 15



1994年6月4日に開催された、がくさい病院の開院10周年を祝う記念式典の様子を伝える京都新聞記事の写真。 京都全日空ホテル (現ANAクラウンプラザホテル京都) の会場に医療、行政関係者ら約150人が集まった。

CONTENTS

《特集》がくさい病院40周年

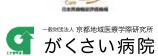
「がくさい40年を語る」森洋一理事長 2・3

「がくさい40年を語る」看護師&薬剤師

入職3年目組インタビュー

病院関連施設一覧





特集

Special edition

「がくさい」40年を語る

住民の健康維持増進に邁進

京都府医師会などが設立した財団法人京都地域医療学際研究所の附属施設 として1984年、京都市北区に「がくさい病院」が誕生。昨年、創立40周年を迎 えました。現在の中京区に移転後は、整形外科とリハビリテーションに特化し た医療サービスを推し進め、府内でも有数の治療実績をあげています。同研究 所の森洋一理事長に"がくさい40年"の歩みを語っていただきました。



一般財団法人 京都地域医療学際研究所

森洋一はりいよういち)

1972年京都大医学部卒。同附属病院研修 医、国立京都病院(現京都医療センター)小児 科を経て、1981年森小児科医院開業。2006 年京都府医師会会長(~16年)。同年京都地域 医療学際研究所理事長(第6代)。

地域医療の草分け的存在として

苦労多かった草創期

地域社会の高齢化が進む中、医療、介護、リ ハビリテーション、健康維持増進などを総合的か つ学際的に実践していこうと、1981年に京都府 医師会が中心になって、財団法人「京都地域医 療学際研究所」を設立し、その中核的施設として

長岡京市に移転した京都済生会病院の病棟(北 区紫野)を改修して、医師4人・看護師7人でス タートしました。当初は、内科を中心に、外科、 整形外科を標榜していました。病院運営が軌道に 乗るまでは、医師会所属の開業医の方々にも当直 業務をお願いするなど、大変な苦労が多かったと 伝え聞いています。

地域医療の草分け的存在だった当院は、まだ

フレイルやロコモといった医療用語が一般的でな かった時代に、高齢期の生活機能の衰えが将来 的に課題になるだろうと予測し、シニア世代の体 力増進に力を入れました。一方で、若者の体力づ くりにも目を向け、スポーツ医科学センターを95 年に開設するなど、早くからスポーツ整形外科に も熱心に取り組みました。

「整形」と「リハビリーを柱に

開院から30年近く経過して、病棟の老朽化や 機能面の制約なども出てきて、2013年に現在地 に新築・移転しました。

新病院では、定評あるスポーツ整形外科、変 形性膝関節症と変形性股関節症の治療が京都で トップクラスの整形外科、さらに、急性期を脱し た患者さんに集中的なリハビリを行う回復期リハ ビリテーションをもう一つの柱に据えて、今日ま で実績を積み重ねてきました。

患者さんの年齢層が高齢者だけでなく、若い人 が多いのも当院の特色です。

病棟で患者さんにお話を伺うと、高齢の方は、

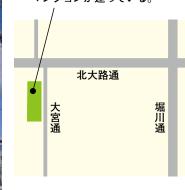
手術を受けた若者がリハビリに励む姿を見て「私 らも頑張ろうという気持ちになる」とおっしゃい ますし、若い人の方も、自分の祖父母の世代が懸 命にリハビリに取り組んでいるのを見て「自分た ちも負けられない」と思われるそうで、そうした 相乗効果が治療にも好影響を与えているのかなと 感じています。

伝統に革新を加えて

医学・医療の進歩はめざましく、例えば、人 工関節の性能などもますます向上していくでしょ う。AIやロボット技術を駆使した手術や介護の支 援も、そのうち本格的に導入されるかもしれませ ん。当院の医療スタッフもさまざまなアイデアや 構想を持っているようです。京都は伝統文化を大 切にしつつ、そこに革新を織り込んで栄えてきた 歴史があります。私たちも諸先輩方が築いた40 年の伝統を守りながら、医学・科学の進歩から生 まれる新たな取り組みも積極的に取り入れて、50 周年に向かってさらなる前進を続けていきたいと 思っています。



旧病院があった場所。現在は マンションが建っている。



開院当時のがくさい病院外観 (京都市北区紫野雲林院町)

84年にがくさい病院を開設しました。



病院の雰囲気の良さは伝統的

がくさい病院が北区紫野にあっ た当時から勤続するY看護師とF 薬剤師に、これまでの病院の様子 や印象深い思い出などを話しても らいました。

先進的な医療・介護を実践

- Y 私は病院ができて4年目に入職しまし た。当時は内科と整形外科をメインにした病 院で、紫野地区は高齢者が多かったです。介 護保険制度ができる前でしたが、現在の地域 包括ケアシステムのように、地域にお住まい の方々が住み慣れた場所で安心して暮らせる ように生活を支援していました。
- F 退院された患者さんが、後日また外来に 来られて、元気な姿を見せてくださるのが嬉 しかったですね。私が入職した頃は、外来患 者さんのお薬も病院でお渡ししていたので、 お薬の説明をしつつ、ちょっと世間話もし て、お薬の管理や服用ができているかなどを 主治医に報告していました。
- Y 整形外科の入院病棟はアスリートの若い 方も多く、病室は合宿所みたいに賑やかで、 カーテンレールにいっぱいの洗濯物を干して いる患者さんもおられました(笑)
- F 整形の外来は患者さんが多かったです ね! 外来受付は午前中なのに、診察は夜の 8時とか。手術が終わるのも夜9時だったり …。事務職員は私よりも帰宅時間が遅かった です。
- Y 当時の院長が京都府立医大の出身だった こともあり、白血病などの血液疾患や腹膜灌 流など当時では先駆けの先進的な治療にも取 り組んでいました。
- F 小規模の病院なのに、抗がん剤の治療も 行っていて驚きました。内科の入院患者さん





はさまざまな疾患の方がおられましたね。

アットホームな職場環境

- F 2013年の病院移転は大変でした。設計 図を見て、各部署からも意見や希望を出しま
- Y 私も昨日のことのように覚えてます。移 転前は業者さんと毎日打ち合わせでした。医 療機器や物品は数回に分けて運び込めました が、入院患者さんの移動は安全面から1日で 済ませないといけなかったので、リハーサル は患者役とスタッフ役に分かれて何度も繰り 返し、本当に大変でした。
- F 旧病院時代からですが、高齢の患者さん が若い患者さんのリハビリの姿に刺激を受け て、よりリハビリに熱が入る。そうした様子 を見て、私の方も元気をもらっています。
- Y 以前は70歳でも高齢のイメージでした が、最近は90歳くらいの方も全身麻酔で人 工関節の手術をして、元気にリハビリに取り 組まれています。医療の進歩を目の当たりに する気がします。
- F 職員数が今より少なかった頃は、仕事終 わりのテニスや職員旅行などで交流する機会 も多かったです。病院スタッフみんなで患者 さんを囲んでいるような、アットホームな雰 囲気が伝統になっています。
- Y これからますますAIが進化する時代にな るんでしょうが、病院は人の温もりも感じら れる場所であり続けたいですね。



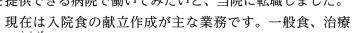
入職3年目組インタビュー

入職3年目は、担当の仕事や社会人としての基本スキルが身に付き、 職場にも慣れてきた時期です。これから業務の幅を広げ、チームの一員と して活躍が期待されるお二人に話を聞きました。

管理栄養士Tさん

毎日の入院食メニューを考案

私は中途採用で、最初は社員食堂や学生寮での食事づく り、次に入ったクリニックでは患者さんの栄養指導を担当し ていました。そこで医療に興味を持ち、入院患者さんに食事 を提供できる病院で働いてみたいと、当院に転職しました。



食、嚥下機能が低下している方用の食事のメニューを作成しています。一厨房の段取りが大 変にならないよう、なるべく食材を共通にするなどの工夫もしています。献立は4週サイ クルが基本ですが、その中に行事食やオリジナルメニューを盛り込んでいます。

病院はさまざまな職種の人たちが働いているので、今後は他部署の人たちとも積極的に コミュニケーションを取っていこうと思っています。患者さんとの関わりは、栄養指導の 時や、入院される食物アレルギーのある方への聞き取りなどに限られているので、その他 でも患者さんとお話しする機会を増やしていきたいですね。

理学療法士Yさん

リハビリを楽しく♪

高校でサッカー部だったんですが、ケガをして通院したの が、がくさい病院でした。その時に理学療法士という職業が あることを初めて知って、いろいろ調べてみて「よし、なろ う となりました(笑)

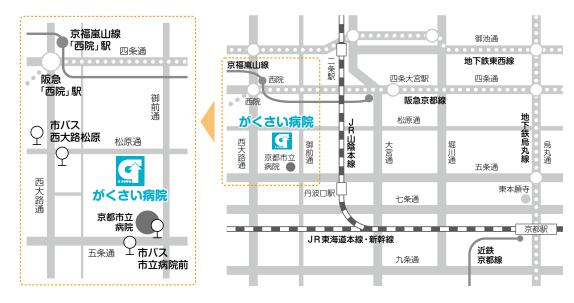
回復期の患者さんの立つ、座る、歩くといった基本動作を メインに改善して、自立した日常生活を送れるよう支援しています。

話すことが好きなので、年齢の離れた患者さんともおしゃべりしながらワイワイとリハ ビリしています。患者さんの若い頃のいろんな話も聞けて、僕自身楽しいですね。

リハビリのスタッフも、ドクターやナースなど他の職種の職員もみんな話しやすい人ば かりで、コミュニケーションの取りやすい職場だと感じています。仕事上での困り事も気 軽に相談しています。

新卒で入って3年目ですが、今年度からは係のリーダーとして、後輩の指導も担うよう になりました。患者さんからも職場の同僚からも頼られる存在になれるよう頑張ります。

交通案内





ロハヘ 四条河原町より 32 系統 市バス JR京都駅より 73·75 系統 } 「市立病院前」 下車 北へ徒歩4分 市バス JR京都駅より 205 系統「西大路松原」下車 東へ徒歩5分



京福嵐山線 西院駅より徒歩10分 JR 丹波口駅より徒歩12分



京都駅から10分

関連施設等

がくさい病院

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1番9	TEL(075)754-7111
●訪問リハビリテーション「がくさい」(がくさい病院内)	TEL(075)754-7303
●京都市域京都府地域リハビリテーション支援センター(京都府より指定)	TEL(075)754-7128
● 京都府リハビリテーション教育センター指定教育病院	TEL(075)754-7111
●日本整形外科学会研修指定病院	
●日本リハビリテーション医学会研修施設	
●日本医療機能評価機構認定病院	
(リハビリテーション病院3rdG Ver2.0 付加機能評価リハビリテーション機能(回復期)Ver3.0)	
●日本医療機能評価機構認定病院	122 (073) 734-71

(リハビリテーション病院3rdG Ver2.0 付加機能評価リハビリテーション機能(回復期)Ver3.0)	
介護老人保健施設「がくさい」 〒603-8465 京都市北区鷹峯土天井町54番地	TEL(075)494-0318
●京都市北区地域介護予防推進センター(京都市より指定)	TEL (075) 494-0323
訪問看護ステーション「がくさい」 〒603-8223 京都市北区紫野東藤ノ森町11番3	TEL(075)431-6154
居宅介護支援事業所「がくさい」 〒603-8223 京都市北区紫野東藤ノ森町11番3	TEL(075)414-2662
京都市鳳徳地域包括支援センター(京都市より委託) 〒603-8145 京都市北区小山堀池町10番地 レスポアール紫明102	TEL(075)223-3511





-般財団法人 京都地域医療学際研究所 がくさい病院

https://gakusai.or.jp/hospital

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1番9 TEL:075-754-7111 FAX: 075-754-7100